

# 同 志 社 大 学

## 2014 年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2015 年 5 月 6 日提出

所 属	職 名	氏 名
	教授	原田隆史
研 究 題 目	知識の体系的・多様性を活かした新たな図書資料提示法に関する研究	
研 究 成 果 の 概 要	<p>本年度は以下の成果を得た。</p> <p>(1) ディスカバリサービスの利用分析 従来の OPAC にはない機能を持つ検索システムであるディスカバリサービスの一つである国立国会図書館サーチ(NDL サーチ)を対象に、利用者の検索行動をそのアクセスログに基づいて分析した。NDL サーチにはファセットによる絞り込み機能がある。これは検索結果にさらに条件を追加する機能を、追加する条件となる語の候補をリストとして利用者に提示するものである。この機能は、単なるランキングにとどまらない資料の様々な側面を提示するという意味で、多様性を反映した検索結果表示方法を模索する本研究の目的に合致するものである。利用分析から、このファセットによる絞り込み機能はよく利用されていることが確認された。</p> <p>(2) NDL ラボサーチ同志社版の開発と評価実験 (1)の分析結果をふまえ、NDL サーチのインタフェースを単館の図書館の OPAC に導入した「NDL ラボサーチ同志社版」を開発し、評価実験を行った。NDL サーチは複数の図書館コレクションやデータベースを対象とするサービスであるため、ファセットによる絞り込み上位には、それらのデータベースが選択肢として提示される。単館のコレクションを対象とする NDL ラボサーチ同志社版では、これに代わってタグクラウド表示等の機能も追加している。学生を対象とする評価実験から、既存のディスカバリサービス等に比べて NDL ラボサーチ同志社版を使いやすいと評価する者が多いこと、その理由としてタグクラウド等の機能があげられることがわかった。ただし、従来システムより使いにくいと評価する者も少なくなく、利用者への機能提示法には検討の余地がある。</p> <p>(3) 書架上の図書の配架方式の検討 昨年度までの研究で検索システムだけではなく、その利用後に訪れる書架上の資料配置も従来と異なるものにする必要性を指摘した。実際にタイトル類等、従来にない配架法を採用した書架を構築し、主題順などの既存の配架方式以上に利用者の満足度が高い場合があることを確認した。</p>	